

十七. 私の思い出—農村地域から都市化へ—

私は昭和十七年に生まれましたので、戦争の記憶は殆どありません。戦後、私の幼少の頃、戦争の傷跡が残っていました。今、島江団地になっている場所がガレキが一杯あったこと、光國寺本堂東側が爆撃を受けた後なのかこげ跡があったことなど記憶しています。その当時の庄内は村落と工場跡地以外は農村地域でした。米軍の占領時代、進駐軍は半町歌島線を通り、伊丹空港へジープに乗ってきましたので、我々子ども達は声をかけ、車を追いかけると気の良い兵隊は笑いながらチョコレートやチューインガムを投げてくれました。これが我々の良いおやつになったのです。

私は昭和二十四年に庄内小学校に入学しました。その当時、小学校が一校、中学校が一校のみで、昭和二十五年には庄内南小学校が開校しました。庄内の住宅開発や商業開発が進んだのは昭和二十六年の庄内駅が開駅してからでした。その当時、私の記憶に残っていることは、猪名川が大水で堤が揺れるような状態になって怖かったこと、猪名川の堤から水面までスロープになっており、川で野菜を洗ったり、洗濯をしたりしていました。この坂を利用してそりで滑って遊んだりしました。船や屎船で尼崎沖までクルーズしたことも忘れられません。

昭和三十年、豊能郡庄内町は豊中市に合併しました。

私の父は昭和三十一年十二月に死にました。私は一人子でしたので、喪主となりました。この時の葬式は「野辺送り」でした。喪主である私は家紋入りの袴を着て、手甲脚半をつけ、頭には三角の布をつけ、父の棺の前を歩きます。父の棺は輿に乗せられ、前後を村の人が担ぎます。その棺は庄本の村墓に運ばれ、迎え地蔵の後の蓮台にのせられ、読経・焼香の後、墓に隣接する焼場で焼かれます。

その後、豊南市場が開設され、多くの人が庄内へ来るようになりました。庄内の旧村名が読みにくいこともあり、住居表示がされ、東から西へ庄内東町、庄内西町、庄内幸町、庄内栄町、庄内宝町、三国塚口線より南は日出町、三国、三和町、大黒町、千成町、島江町、庄本町、二葉町、大島町に住所変更されました。

ただ、庄内の乱開発が問題になり、不法建築物が社会問題となりました。



迎え地蔵